

雄勝稲作情報

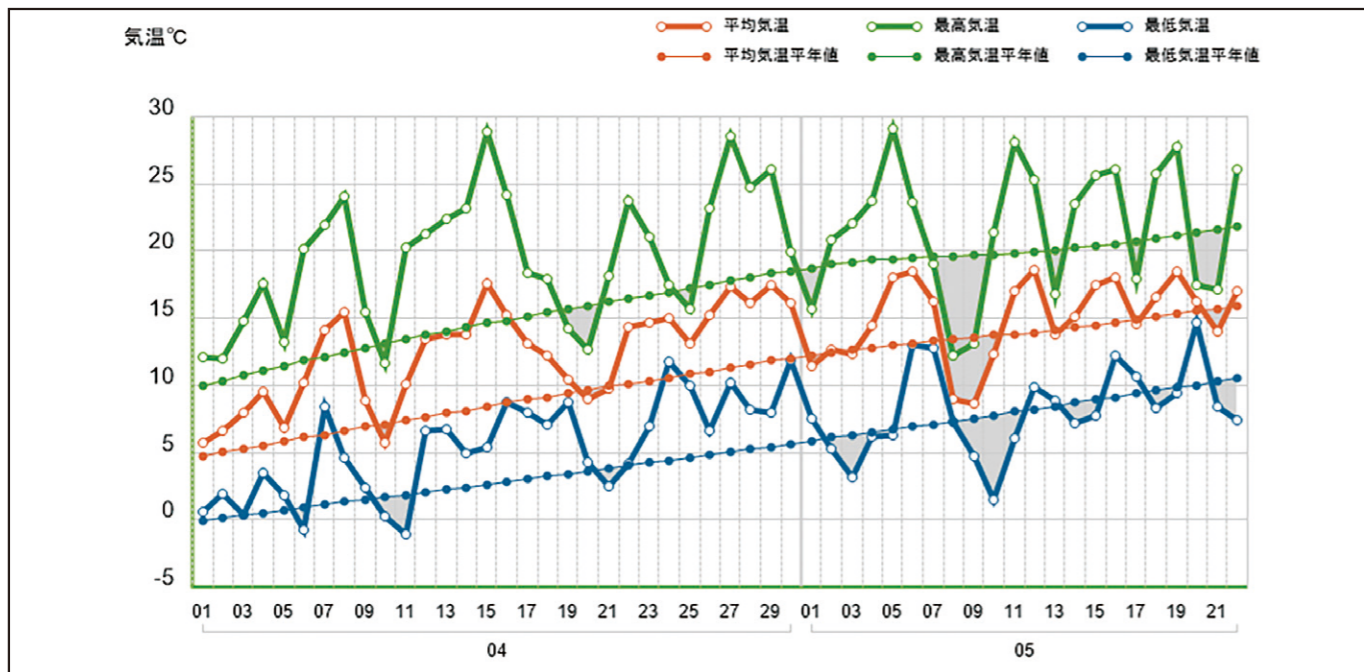
No.4 令和6年6月3日



発行 ● 駒 ち 農 業 協 同 組 合
 湯 沢 主 食 集 荷 商 業 組 合
 湯 沢 市 農 業 総 合 指 導 セ ン タ ー
 東 成 瀬 村 農 業 総 合 指 導 セ ン タ ー
 秋 田 県 農 業 共 済 組 合
 監修 ● 雄勝地域振興局農林部農業振興普及課
 雄勝地方病害虫防除員協議会

これまでの気象経過

(4月1日～5月22日：アメダス湯沢)



雄勝管内の播種盛期は4月24日（平年より1日早い）でした。育苗期間を通して高温で、日照時間も平年より多く推移したことから、ハウス内の温度が高まり、苗の出芽や生育は順調でした。

田植え作業は、5月18日頃から始まりました。田植え後は気温が高く、降雨日が少なく、日照時間が多く推移したため、地温が高まり、苗の活着は順調でした。

育苗期間中に、もみ枯れ細菌病等の苗腐敗症を発症させてしまったところでは、育苗箱等の資材に病原菌が付着している可能性がありますので、十分洗浄し、消毒資材（「イチバン」500～1,000倍または「ケミクロンG」500倍）での消毒を確実に実施しましょう。

東北地方予報【向こう1ヶ月の天候見通し】

(令和6年5月23日発表)

【平均気温】 平年並の見込みです。 (低30%・並40%・高30%)
 【降水量】 平年並か多い見込みです。 (低20%・並40%・高40%)
 【日照時間】 少ない見込みです。 (低40%・並30%・高30%)

余り苗は直ちに泥の中に完全に埋めて処分して下さい!

注意!

補植用の苗を放置しておく、いもち病の発生源になります。いもち病の発生は周辺圃場へも大きな影響がありますので、早期発見・早期防除に努めてください。



今後の管理について

目標茎数を確保しましょう!

雄勝地域の「あきたこまち」目標茎数

6月25日～30日頃 8～9葉期（有効茎決定期）

目標茎数420本/m²確保(株当たり茎数の目安) ●60株/坪…23本/株 ●70株/坪…21本/株

※生育が遅れている場合は目標茎数まで分げつ促進を図ります。

※有効茎決定期は、天候により時期が前後する場合があります。

浅水管理による1次分げつの発生促進

1次分げつの発生を促進するため浅水管理とし、水温と地温を高めましょう。日気温較差を大きくすることで、第3～6節の1次分げつの発生が促進されます。

異常還元時の適切な水管理

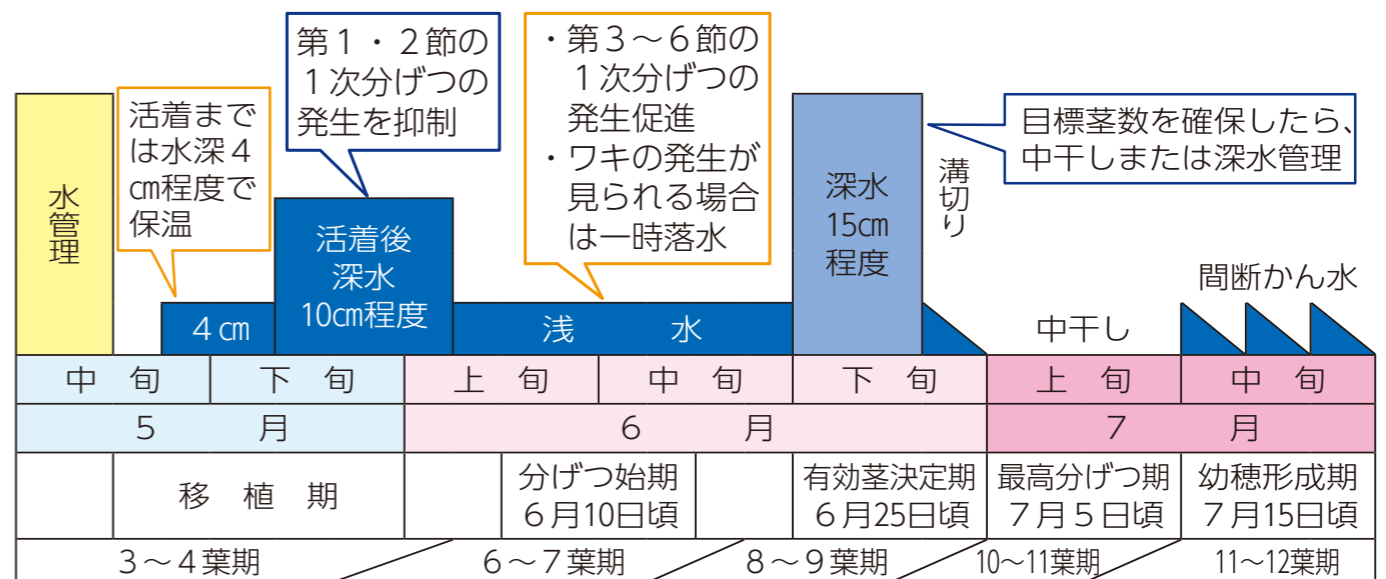
高温が続くと水温や地温が高くなり、藻類の発生や土壌の異常還元（ワキ）を助長して、初期生育が抑制されるため、気温の低い早朝や雨の日に、水の入れ替えを実施しましょう。

中干し（または深水管理）による分げつ制御

目標茎数（70株/坪の場合は21本/株）を確保したら、6月下旬を目途に、中干しまたは深水管理で、無効茎の発生を抑制します。中干し期間は7～10日位とし、中干しの程度は田面に亀裂が1～2cm入り足跡がつく程度です。中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的に保って根の伸長を促進しましょう。

溝切りの適切な実施について

田面の均平が悪く落水しにくい場合や排水不良田は、溝切りを行いましょう。溝切りを行うと水の回りが早くなるため、水不足が心配されるようなところでは、効率的な水管理を行うことができます。また、排水も素早く行うことができ、中干しの効果が高まります。さらに、登熟後半まで水管理が可能となるため、根の活力が維持され、登熟歩合の向上に繋がります。



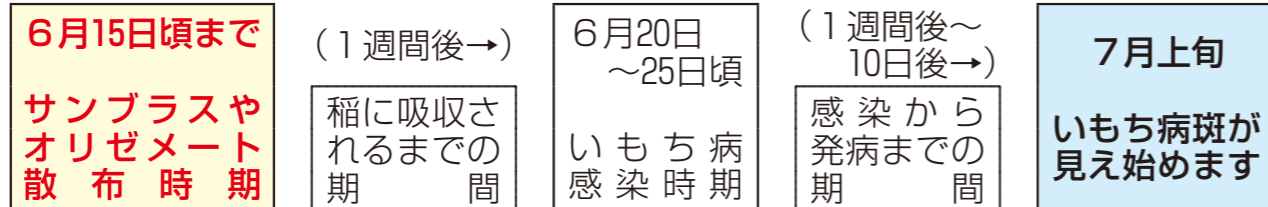
葉いもちの予防対策を徹底しましょう！

●サンブラス粒剤やオリゼメート粒剤の散布は感染前に！

葉いもちは例年6月20日～25日頃には感染、7月上旬には病斑が見え始めます。サンブラス粒剤（3kg/10a）やオリゼメート粒剤（2kg/10a）は防除効果を発現するまでに、散布後約7日を要しますので、**6月15日頃までに散布します。**

田植え前や移植時の箱施用剤（いもち剤入り）や、移植時のペースト混和剤（いもち剤入り）を使用していない場合には、確実に散布しましょう。

また、散布時は湛水状態で田面に均一に散布して下さい。



【葉いもち用水面施用剤を散布する際の注意点】

- ・湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間はかん水を行わない。
- ・周辺環境に配慮し、散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

●いもち病を見つけたら！

ブラシン剤、ノンブラス剤、トライ剤（予防剤と治療剤の混合剤）の茎葉散布を実施し、その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

※フサライド剤（ラブサイド、ブラシン）、トリシクラゾール剤（ビーム、ノンブラス）の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内、テブフロキン剤（トライ）は2回以内なので注意してください。

なお、育苗段階の使用もカウントされます。

薬 剤 名	剤 型		
	粉 剤 D L 3～4kg/10a	ゾル 1,000倍 100～150L/10a	フロアブル 1,000倍 100～150L/10a
ノ ン ブ ラ ス	○		○
ブ ラ シ ン	○		○
ビ ー ム	○	○	
ト ラ イ ^{*1}			○

※1 トライは60～150Lで1,000倍

《いもち病ズリコミ圃場の様子》



微量要素肥料の追肥（調節肥）で異常気象に強い稲を！

水稻はケイ酸や苦土等の微量要素を土壌から吸収しています。

微量要素の施用は、米の生産性や品質の向上、異常気象（高温、低温、強風等）に強い稲づくりに繋がります。

微量要素入り肥料（例）

肥 料 名	種 類	施肥量 (kg/10a)	施肥時期	備 考
けい酸加里	ケイ酸含有肥料	20kg	6月下旬～7月上旬	①倒伏抵抗性が高まる ⑤食味向上 ②根の活力向上 ⑥病害虫被害の軽減 ③有効茎歩合の向上 ⑦葉身の老化軽減 ④登熟歩合の向上 ⑧ワキの発生抑制
サンメイト		30kg		
K S K 28		1.4kg		
マグホス	リン酸含有肥料	20～40kg	7月上旬	①根の活力向上 ③登熟歩合向上 ②有効茎歩合向上
PK化成40号		20kg		

初・中期除草剤使用後の残草対策

○ノビエやホタルイが残草すると圃場内がアカスジカスミカメの産卵・繁殖場所となります。適期を逃さず、中・後期除草剤で処理しましょう。

藻類、カナ表層はく離用除草剤	使用時期（移植水稻）	使用方法	成分数	
モゲトン粒剤	藻類・表層はく離発生時、収穫45日前まで	湛水散布	1	
クリアホープフロアブル	移植直後～ノビエ1葉期まで（移植30日以内）		2	
残草の種類	除 草 剤 名	使用時期（移植水稻）	使用方法	成分数
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg/10a… 移植後7日～ノビエ4.0葉期まで 1.5kg/10a… 移植後25日～ノビエ5.0葉期まで	湛水散布	1
	ヒエクリーン1キロ粒剤 ワンステージ1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで		
	トドメMF 1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ5.0葉期まで		
ノビエ及びホタルイ、コナギ、オモダカ等	レブラス1キロ粒剤 ゲパード1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4.0葉期まで	湛水散布	4
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで		
	クリンチャーバスME液剤 トドメバスMF液剤※	移植後15日～ノビエ5.0葉期まで ※トドメバスMF液剤はノビエ6.0葉期まで 使用量1000ml/10a 散布液量70～100L/10a		

除草剤の使用時期については、上記のノビエ葉齢期よりも早めの散布で効果が高まります。

「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」6/1から8/31までは「農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬によって使用量や希釈倍数、使用時期や使用方法等が異なりますので、使用前には **必ずラベルをよく読み適正に使用して下さい。**